

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

令和7年2月7日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派(私)は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会 派 名	市民とともに /		代 表 者	
			議 員 名	肥 後 淳 三 /
派 遣 者 氏 名	肥 後 淳 三 /			
視 察 先	・千葉県木更津市役所 木更津市富士見 1-2-1 ・千葉県大網白里市市役所 大網白里市大網 115-2 ・千葉県匝瑳市役所 匝瑳市八日市場ハ 793-2			
調 査 事 項 (調査目的)	・オーガニックなまちづくりと学校給食への取組みについて ・デジタル博物館について ・ゼロカーボンシティの取組み(ソーラーシェアリングの取組み)			
日 時	令和7年1月14日(火曜日)～令和7年1月16日(木曜日)			
支 払 金 内 訳	科 目	支 出 額	摘 要	
	宿 泊 料	27,000	13,500円×2泊	
	日 当	9,000	3,000×3日	
	鉄 道 賃 (モジュール)	33,870	別紙参照 (33,150) +神鉄 WT 中央～三田 360×2=720	
	航 空 賃			
	バ ス 賃			
	船 賃			
	タ ク シ ー		宿泊地～匝瑳市役所	
	そ の 他	2,268	手土産 3か所 9,072÷4=2,268	
	合 計	72,138		
備 考				

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和7年2月7日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民とともに	代表者	
		議員名	肥後 淳三
派遣者氏名	肥後 淳三		
視察先及び調査事項(調査目的)	・千葉県木更津市役所 木更津市富士見 1-2-1 オーガニックなまちづくりと学校給食への取組みについて ・千葉県大網白里市市役所 大網白里市大綱 115-2 デジタル博物館について ・千葉県匝瑳市役所 匝瑳市八日市場ハ 793-2 ゼロカーボンシティの取組み(ソーラーシェアリングの取組み)		
日 時	令和7年1月14日(火)～令和7年1月16日(木)		
視察先対応者	・木更津市役所・・・建設経済常任委員会副委員長 佐藤修一 企画部オーガニックシティ推進課係長 勝畑将太 佐久間 千春 経済部 農林水産課課長 黒川克明 有機農業推進係 緒形隆澄 教育委員会 学校部学校給食課栄養係長 小泉仁美 ・大網白里市役所・・・副議長 石渡登志男 議会事務局長 岡部一男 教育委員会生涯学習課課長 鈴木正典 福主査(学芸員)武田剛朗 ・匝瑳市役所・・・議長 行木光一 市議会川島誠二 ゼロカーボンシティ推進課室長 渡邊一豊 課長伊橋史悦 脱炭素推進室主査 伊藤優志 匝瑳みらい(株)、市民エネルギーちば(株)、(株)匝瑳おひさま畑 代表取締役 椿茂雄		
(調査結果の概要及び所見)別紙でも可 *調査結果は別紙参照 *名刺と視察資料を添付 (別紙1:木更津市 別紙2:大網白里市 別紙3:匝瑳市)			

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

別紙1【木更津市:オーガニックなまちづくり調査報告】

1 視察先と視察目的

視察先：木更津市

- 目的：①オーガニックなまちづくりについて
②オーガニック米のための農業推進事業について
③学校給食の取組みについて

2 調査内容

(木更津市バックデータ)

人口：13万7千人 市施行：昭和17年(83周年)

市域：138.90km²

東京湾に建設されたアクアラインにより、羽田空港や都心が近くなり、都心に一番近い田舎として人口が緩やかに増加してきている。また、気候は年間通じて温暖であり、播州干潟の存在でアサリやハマグリなどの海産物を始め、米やブルーベリーなど農業も盛ん。

① オーガニックなまちづくりについて

【オーガニックなまちづくりが動き出すきっかけ】

2016(平成28)年3月の市長施政方針にまちづくりの視点として、人と自然が調和した持続可能な未来を創る「オーガニックなまちづくり」を推進すると発言。SDGsのまちづくりが動き出した。

その意図するところは、「地域経済の活性化」と「若者の獲得」。

*木更津のオーガニックの定義と基本理念

【木更津市 人と自然が調和した持続可能なまちづくりの推進に関する条例が
平成28年12月15日に施行】

(オーガニックなまちづくりの定義)・・・地域社会を構成する多様な主体が一体となり、人と自然が調和した持続可能なまちとして、次世代に継承しようとする取り組み。

(基本理念)・・・①環境に配慮した主体的に行動する人を育む ②自然と共に発展する持続可能なまちの基盤を整備する ③多様性を認め、支え合う、自立した社会の仕組みを構築

【これまでの取組み】

オーガニックなまちづくり条例は、すなわち木更津市のSDGsを達成する取組みの一環でもある。

これまで第1期から第3期(令和2年から9年)までのアクションプランを策定し、下記の取組みを行ってきた。

ア 木更津市オーガニックシティプロジェクト推進会議の設置

- ・産官学の取組みでフェスティバルを毎年11月3日に開催、昨年は28千人の来場者数があった。
- ・オーガニックアクション宣言企業公募し、現在は、92企業を認定している。

【第3期オーガニックなまちづくりアクションプランの「地域環境共生圏」】

・木更津市では、第3期オーガニックなまちづくりアクションプラン期間となっており、その中の「地域循環共生圏」について特筆する。

(地域循環共生圏とは何か)

地域循環共生圏とは、地域資源を活用し、環境・経済・社会を良くしていくビジネスや事業という形で社会の仕組として組込む。例えば「都市と農村」のように地域の個性を活かして地域同士で支え合うネットワークを形成していく「自立・分散型社会」を示す考え方。

・市としての取組み

木更津市では、地域循環共生圏の取組みを ①里山の再生部会 ②地域循環部会 ③食・有機農業部会 ④再生可能エネルギー部会 ⑤里海活用部会の5部会に分け企業や各種団体がテーマごとに議論した結果、この議論の中から18もの事業(取組み)が生まれている。

これらの取組みを推進し、木更津市独自の「地域ブランド」の確立を目指す。

② オーガニック米のための農業推進事業について

オーガニック米を生産するようになったのは、前述した通称：オーガニックなまちづくり条例がきっかけではあるが、市は、オーガニック米に取り組んでいる「いすみ市」を視察、第一人者であるNPO 法人民間稲作研究所の稲葉先生の指導のもとオーガニック米の栽培に臨むことになった。

2019(平成31)年2月に稲葉先生を講師に迎え地域農業者向けの「農業フォーラム」を開催、参加者にアンケートをとり、その中の5名の農業者がオーガニック米に興味があり取り組んでみたいと回答。この5名の方と同年にオーガニック米の米作りがスタートした。

現在の生産量等これまでの経過は、前述したとおりである。

懸案事項：その①生産者を増やしていくための雑草防除対策、収量確保対策等栽培技術の確立を急ぐ必要がある。その②現在の生産者が指導者になれるよう技術力の向上と伝承が課題。

③ 学校給食の取組みについて

木更津市の学校給食の運営については、センター方式、自校親子方式、自校単独校方式の3方式で調理している。全30校で約11,520食である。

オーガニック米の実施日数は、令和6年度で96日を予定している。(給食は、年間191日が給食日となっており、オーガニック米の給食は進捗率62.7%となっている。

令和6年度の市内コシヒカリと有機米の差額を補填するための予算は、10,186千円である。なお、この補填以外にも第3子以降の学校給食費を無償化しており、令和7年1月現在で1,113人となっている。(見込額59百万円：県1/2補助)

また、教育委員会では、オーガニック米を導入以降、生産者を学校に招待し、児